



目黒区生物多様性地域戦略

いのち わ
ささえあう生命の輪

野鳥のすめるまちづくり計画



2014(平成26)年3月

 目 黒 区



「身近な自然を守り未来に伝えていくまちめぐろ」を目指して

私たちの生活は、生物の多様性によってもたらされる自然の恵みに支えられていますが、現在、生物多様性は地球規模で損失が進んでいます。

目黒区では、この20年ほどの間に区内で見られなくなってしまったいきものがあるなど、自然が常に変化しています。一方で、区民や専門家によるいきもの調査から、驚いたことに3千種近くもの大変多くのいきものたちが私たちの身の周りに暮らしていることがわかっています。また、最近では東京大学駒場Ⅰキャンパスで新種の昆虫が見つかるなど、都市化された目黒区ですが、まだまだ身近なところにいきものすめる環境が残されています。

「ささえあう^{いのち}生命の輪^わ 野鳥のすめるまちづくり計画」は、2年間をかけ、子どもから大人までたくさんの区民の皆さんの参加を得て出来上がったものです。2012(平成24)年に目黒区は誕生から80年を迎え、「めぐろのいきもの80選」の投票を行いました。その結果、4,433票の投票があり、身近に親しまれているいきものようすを把握することができました。また、公園での観察会や意見募集イベント「めぐろいきもの学校」等を開催し、区民の皆さんと一緒にめぐろに暮らすいきものを学び、計画についても数多くのご意見を頂きました。

原っぱでの観察会では、子どもたちが目を輝かせながらバッタやチョウを夢中で追いかけたり、恐る恐る虫に触ったり、という姿を目にし、身近な自然にふれることの大切さを改めて実感しました。こうした一人ひとりの原体験や原風景が心を豊かにし、生命や自然を尊ぶ気持ちを育てていきます。次世代のめぐろの子どもたちのために、身近な自然を守り、生物多様性を未来に伝えていかなければなりません。

この計画は、いきものの、人の、地球の未来のために、私たちができることのヒントが詰まっている「未来への缶詰」です。どうか皆さんもこの缶詰を開け、足もとの小さなことから未来の目黒区のためにご協力ください。

最後になりましたが、本計画策定にご協力いただきました全ての方に、厚くお礼申し上げます。

2014(平成 26)年 3月

シジュウカラのさえずりを聞きながら

目黒区長 青木 英二



目次

第1章 背景と位置づけ	1
1-1 生物多様性とは	2
1-2 計画の位置づけ	3
(1) 国際条約	3
(2) ほかの計画等との関係	3
1-3 対象の区域と期間	3
(1) 対象区域	3
(2) 対象期間	3
第2章 目黒区の風土(現状と課題)	5
2-1 自然に育まれている私たちの暮らし	6
(1) みどりを楽しむ	6
(2) 旬に親しむ	7
(3) いきものに出会う	7
2-2 区の概要	8
(1) 位置・人口	8
(2) 歴史	10
2-3 めぐろの風景	11
(1) むかし見たいきものたち	11
(2) 私たちの原風景	12
(3) 今に伝えられている風景・新しい風景	14
(4) 自然のすがた	16
(5) 区民の活動	20
2-4 取り組む課題	22
(1) 都市の温暖化	22
(2) みどりの減少	22
(3) いきものの変化	23
(4) 区民の意識と暮らし	25



森の中



大きな木

第3章 未来に向けて(未来のすがたと目標)	27
3-1 計画の名称	28
3-2 未来のすがた	30
(1) 私たちのまち	30
(2) 私たちの目指す方向	31
(3) まちと暮らしのイメージ	33
3-3 目標	34
第4章 未来をつくる(実現の方策)	41
4-1 土台づくり(基本の取り組み)	42
(1) 野鳥のすめる多様な環境をつくる基本行動と取り組み ..	43
(2) 自然と共生する豊かな心を育む基本行動と取り組み	49
(3) ささえあう ^{いのち} 生命の輪 ^わ を広げる基本行動と取り組み	53
4-2 地域別の取り組み	55
(1) エコロジカルネットワークをつくる	55
(2) 「めぐろの森」の取り組み	57
(3) 「まちの樹林」の取り組み	61
(4) 「いきものの道」の取り組み	64
(5) 「いきものの庭」の取り組み	68
(6) エコロジカルネットワーク形成図	69
4-3 一人ひとりの取り組み	70
4-4 進み具合の確認	70
(1) みんなで取り組む体制づくり	70
(2) 進み具合の確認方法	70
(3) 進み具合の周知方法	70
(4) 時が培う目黒区の生物多様性	72
(5) 愛知目標との関係	74
附属資料 目次	75

注1: 当該ページ内で説明します
* :(*) 附属資料(附一9)で説明します。見開き内に同一用語がある場合には最初にマークしています
^R : (R) 附属資料(附一10)で出典を示します
年の表記 時間的な経過を分かりやすくするため、年の表記は西暦と元号を併記します
生物種名 原則標準和名*を用いますが、別名や通称名で記述している部分もあります
種名、学名の対比は附属資料(生物名索引)を参照してください



目黒区のスノコ

いぎものすむ土・地面

自然のしくみ(いぎものすむ土・地面)

落ち葉を分解するダンゴムシやミミズなどのいぎものが生息できる土には、アオオサムシやモグラなどの肉食のいぎものも生息できます。いぎものたちは土の中を動き回って土を耕し、土の中にはすきまがたくさんできます。このようなすきまがあることで、樹木など植物の根が呼吸でき、健全な林となります。雨水をためる力も強くなり、湧水の源となるほか、大雨による水害の防止にも役立ちます。